

# CCUS研究開発・実証関連事業事業

資源エネルギー庁資源・燃料部  
石油・天然ガス課

令和5年度概算要求額 **108.3 億円** ( 82.3 億円 )

## 事業の内容

### 事業目的

二酸化炭素回収・貯留（CCS）は2050年カーボンニュートラルの達成に向けて鍵となる技術であり、北海道苫小牧市にある我が国唯一のCCS実証試験センターを核として、CCU実証も可能とすることで、苫小牧のCCUS拠点化を目指します。本事業により、CCUSの事業化に不可欠なCO<sub>2</sub>長距離輸送技術開発及び安全かつ低コストなCO<sub>2</sub>貯留技術の研究開発、回収CO<sub>2</sub>を利用したメタノール合成技術の実証、CCS大規模実証試験で圧入されたCO<sub>2</sub>の監視（モニタリング）、状況分析等の実施を目的とします。

### 事業概要

2030年までのCCS事業化に向け、以下の事業を実施します。

（1）苫小牧での大規模実証：CCS大規模実証試験において圧入したCO<sub>2</sub>分布の分析及び海域の状況等について、海洋汚染防止法に則り、監視（モニタリング）します。

（2）CO<sub>2</sub>長距離輸送実証：世界に先駆け、船舶による液化CO<sub>2</sub>の長距離輸送の実証をします。

（3）回収CO<sub>2</sub>利用メタノール合成実証事業：事業所で排出されたCO<sub>2</sub>を活用して商用規模のメタノール合成実証を実施します。

（4）安全なCCS実施のためのCO<sub>2</sub>貯留技術の研究開発：CO<sub>2</sub>貯留技術に関する安全性を担保した、低コストかつ実用規模の安全管理技術の確立を目指した研究開発を実施します。

## 事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



## 成果目標

- （1）2030年までのCCS事業化を目指します。
- （2）2025年度までに実用規模の安全管理技術の確立を目指します。